



## ある日の午後（大字玉川地内）

この日はカフェでランチ。

テラス席に座ると、ちょうどいい具合に「川の広場」で遊んでいる人たちの姿が見える。

お店の人にことわって、急遽スケッチさせていただくことにした。

川の向こう側では夏の名残を満喫する人々。

そして、川のこちら側、木の葉越しに見える稲田は、すでに秋の気配である。



【編集後記】広報技術に磨きをかけるべく、日本広報協会の研究会に参加してきた。情熱をもって広報に取り組む方々の言葉に多くの刺激を受けた。「広報担当が撮った写真は、その人にとって一生の1枚」。私の記憶に深く刻まれている登壇者の一言だ。デジタル技術が進歩し、紙の広報紙の存在意義が問われる令和の時代。いつの日か引き出しの奥から色あせた広報紙を取り出し、何十年もの時に思いを馳せる——。そんなアナログならではの良さもあるのではなからうか。町のイベントで広報の腕章をみかけた方はぜひお気軽にお声がけください。あなたにとって"一生の1枚"お撮りします!【笠原】

